

平成23年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月4日

上場会社名 株式会社 ジー・モード
 コード番号 2333 URL <http://www.G-mode.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 郡山 龍
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 善村 賢治
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月8日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 大

TEL 03-5456-3780

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第1四半期	1,255	6.9	113	—	108	—	106	—
23年3月期第1四半期	1,173	0.2	8	△59.2	4	△83.6	△4	—

(注) 包括利益 23年12月期第1四半期 99百万円 (—%) 23年3月期第1四半期 △6百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年12月期第1四半期	944.79	—
23年3月期第1四半期	△36.52	—

当社は、平成23年12月期より決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更しております。詳細につきましては、平成23年5月19日発表の「決算期変更及び定款一部変更に関するお知らせ」をご参照ください。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第1四半期	4,543	—	4,034	—	—	88.8
23年3月期	4,469	—	3,934	—	—	88.0

(参考) 自己資本 23年12月期第1四半期 4,034百万円 23年3月期 3,934百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年12月期	—	—	—	—	—
23年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更しております。このため、決算期変更の経過期間となる平成23年12月期は9ヵ月間の変則決算となります。

3. 平成23年12月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,480	3.5	50	—	40	—	40	—	353.41
通期	3,800	—	0	—	0	—	0	—	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

平成23年12月期は、決算期変更の経過期間となることから、通期については9ヵ月間(平成23年4月1日～平成23年12月31日)の予想数値を記載していません。このため、通期の対前期増減率については記載していません。

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、【添付書類】P.3「2. サマリー情報(その他)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

23年12月期1Q	113,183 株	23年3月期	113,183 株
23年12月期1Q	— 株	23年3月期	— 株
23年12月期1Q	113,183 株	23年3月期1Q	113,183 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付書類】P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における国内携帯電話市場は、従来型携帯電話の販売台数が前年割れとなる中、携帯電話キャリア各社による春夏商戦での新端末の積極投入や、スマートフォンへの社会的認知度の高まりなどに後押しされ、今年6月の家電量販店での携帯電話販売台数に占めるスマートフォンの割合は月単位で初めて5割を超える(GfKジャパン調べ)など、その需要は引き続き堅調に推移しております。今後は端末メーカーによる新機種投入や携帯電話キャリア各社による夏モデルの販促活動が本格化することから、従来型携帯電話からスマートフォンへのシフトはさらに加速し、市場構造の二極化がより一層鮮明になるものと思われま

す。モバイルコンテンツ市場におきましては、従来型携帯電話市場が成熟化し、シェアの低下が予測される中、モバイルコンテンツ関連事業者の主戦場はスマートフォンへと移行しつつあります。また、携帯電話向けソーシャルアプリの隆盛は市場の拡大と活性化をもたらす一方で、ソーシャルアプリプロバイダー(SAP)やアプリが乱立し、レッドオーシャン化の様相を呈していることから、今後はSAPやサービスの淘汰・選別が進むものと思われま

す。加えて、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモが今年冬以降にiモードの課金・認証の仕組みをスマートフォンへ導入すると発表したことで、スマートフォンの普及拡大のみならず公式コンテンツの利用促進にも大きな影響を与えることが予想されます。さらに、国内外におけるスマートフォン戦略強化に向けて、ソーシャルゲームを中心に幅広い年齢層のユーザーを擁するSNS事業者と外部からのコンテンツ調達を志向する携帯電話キャリアとの提携や協力関係構築に向けた動きも活発化しております。

このような経営環境の下、公式コンテンツ配信事業では、集客力の強化やユーザー導線の拡張、退会率の抑止等に取り組み安定した収益基盤を維持する一方で、新たな収益基盤の構築に向けて、オープンソーシャル事業やスマートフォン向けの新サービス開発に注力いたしました。

なお、各セグメントの概況は以下のとおりであります。また、当第1四半期連結累計期間よりセグメント情報の区分を変更しております。変更の内容については、「3. 四半期連結財務諸表 (4) セグメント情報等」に記載のとおりであります。このため、前年同期比較においては、前年度実績を変更後の区分に組み替えております。

①公式コンテンツ配信事業

公式コンテンツ配信事業におきましては、スマートフォンの需要がさらに拡大し厳しい環境が続く中、総合ゲームサイト「テトリス&Getブチアプリ」で展開する「ワンダーファームリゾート ぼくと妖精のしま」などが好調を維持していることに加え、新たに投入した追加課金型コンテンツ「ゴム犬のたまご」が堅調に推移いたしました。また、専門ゲームサイトでは、競走馬育成シミュレーションゲーム「俺の馬」や人気RPG「フラインハイトフロンティア」の個別課金などが大きく売上に貢献いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は1,018百万円となり、前年同期比9.4%の減少となりました。

②オープンソーシャル事業

オープンソーシャル事業におきましては、事業基盤の拡充に向け、成りあがりシミュレーションゲーム「悪役ごっこ」を新たに投入するとともに、主力コンテンツ「天空のスカイガレオン」のバージョンアップとスマートフォンでの配信を開始いたしました。さらに、公式コンテンツ「俺の馬」との連動イベントを実施し登録会員数の拡充に注力いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は185百万円となりました。

③その他

自社ゲームライセンスの許諾やコンテンツ開発受託、オープンプラットフォーム向けコンテンツ配信、一般サイト事業などからなる本セグメントにおきましては、「ドコモマーケット(iモード)」で展開する「TETRIS CRYSTAL(テトリスクリスタル)」などの売上が堅調に推移いたしました。また、新たにニンテンドー3DS™ダウンロードソフト向けに「ミステリー P. I.™~消えたフィルム~」の提供を開始したほか、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社との共同制作による「Disney テトリス® 1to3」の配信など、新たなサービスに取組みました。

この結果、本セグメントの売上高は50百万円となり、前年同期比37.2%の増加となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比6.9%増加し1,255百万円となりました。また、損益面におきましては、オープンソーシャル事業の拡充等により売上原価が増加したものの、全社的な業務効率化の推進により販管費の圧縮が図れたことなどから、営業利益は前年同期比104百万円増加し113百万円、経常利益は108百万円、四半期純利益は106百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末より73百万円増加（前期末比1.6%増）し、4,543百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より84百万円増加（前期末比2.0%増）し、4,307百万円となりました。主な要因は現金及び預金の増加163百万円、受取手形及び売掛金の減少74百万円であります。固定資産は、前連結会計年度末より11百万円減少（前期末比4.6%減）し、235百万円となりました。主な要因は、有形固定資産及び無形固定資産の減価償却による減少7百万円であります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末より26百万円減少（前期末比4.9%減）し、508百万円となりました。主な要因は支払手形及び買掛金の減少7百万円、その他の構成科目である未払金の減少13百万円であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より99百万円増加（前期末比2.5%増）し、4,034百万円となりました。主な要因は四半期純利益の計上による利益剰余金の増加106百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年12月期第2四半期連結累計期間及び通期業績予想につきましては、東日本大震災の影響により、合理的な算定ができないため未定としておりましたが、最近の市場環境、当社企業グループ業績動向などを考慮した結果、一定の見極めが可能と判断しましたので、本資料において公表しております。

詳細につきましては、本日公表の「業績予想の公表に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

一部簡便な会計処理を適用しておりますが、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,584,346	2,748,218
受取手形及び売掛金	1,294,954	1,220,390
商品及び製品	103	504
仕掛品	123,794	155,204
未収還付法人税等	4,650	4,746
その他	220,911	184,806
貸倒引当金	△6,331	△6,600
流動資産合計	4,222,430	4,307,270
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	59,452	57,043
工具、器具及び備品(純額)	25,836	22,727
有形固定資産合計	85,289	79,770
無形固定資産		
その他	16,479	15,449
無形固定資産合計	16,479	15,449
投資その他の資産		
投資有価証券	24,066	23,660
その他	121,197	116,887
投資その他の資産合計	145,264	140,547
固定資産合計	247,033	235,767
資産合計	4,469,464	4,543,038

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	228,655	220,737
未払法人税等	11,091	4,188
繰延税金負債	3,210	454
その他	292,140	283,300
流動負債合計	535,098	508,681
固定負債		
繰延税金負債	—	106
固定負債合計	—	106
負債合計	535,098	508,787
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,320,723	3,320,723
資本剰余金	551,066	551,066
利益剰余金	61,538	168,472
株主資本合計	3,933,328	4,040,262
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,643	△3,937
繰延ヘッジ損益	4,681	△2,074
その他の包括利益累計額合計	1,037	△6,012
純資産合計	3,934,366	4,034,250
負債純資産合計	4,469,464	4,543,038

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	1,173,867	1,255,018
売上原価	710,311	734,005
売上総利益	463,555	521,013
販売費及び一般管理費	455,017	407,557
営業利益	8,538	113,455
営業外収益		
受取利息	4,931	169
未払配当金除斥益	1,732	—
その他	—	67
営業外収益合計	6,663	237
営業外費用		
為替差損	10,956	5,371
その他	14	21
営業外費用合計	10,970	5,392
経常利益	4,231	108,300
特別損失		
固定資産除却損	40	415
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,256	—
特別損失合計	2,296	415
税金等調整前四半期純利益	1,934	107,884
法人税、住民税及び事業税	8,049	950
法人税等調整額	△2,274	—
法人税等合計	5,775	950
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△3,840	106,934
少数株主利益	293	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,133	106,934

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△3,840	106,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△826	△294
繰延ヘッジ損益	△2,205	△6,755
その他の包括利益合計	△3,032	△7,049
四半期包括利益	△6,872	99,884
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△7,165	99,884
少数株主に係る四半期包括利益	293	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	公式コンテン ツ配信事業	オープンソー シャル事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,124,328	12,891	1,137,220	36,647	1,173,867	—	1,173,867
セグメント間の内部 売上高又は振替高	394	—	394	5,400	5,794	△5,794	—
計	1,124,723	12,891	1,137,615	42,047	1,179,662	△5,794	1,173,867
セグメント利益 又は セグメント損失 (△)	286,529	△51,703	234,826	△54,035	180,790	△172,251	8,538

当第1四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	公式コンテン ツ配信事業	オープンソー シャル事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,018,901	185,828	1,204,730	50,288	1,255,018	—	1,255,018
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,018,901	185,828	1,204,730	50,288	1,255,018	—	1,255,018
セグメント利益 又は セグメント損失 (△)	336,035	△20,134	315,901	△54,297	261,603	△148,147	113,455

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、一般サイト事業、受託事業及びライセンス事業等を含んでおります。

2. 調整額の内容は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

利益	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	60	60
のれんの償却額	△2,607	—
全社費用(注)	△170,243	△148,207
棚卸資産の調整額	539	—
合計	△172,251	△148,147

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度まで「公式コンテンツ配信事業」「オープンソーシャル事業」「一般サイト事業」の3区分としておりましたが、「一般サイト事業」につきましては、金額的重要性が低下したため、当第1四半期連結累計期間より報告セグメントに含めず、「その他」に含めることにしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間において用いた報告セグメントに基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。